

研修名 第3回 京丹後市自主研修会

平成29年1月28日(土) 13:45~15:30

講演 「ヒヤリハット事例から学ぶアレルギー対応策」

講師 山城北保健所 土屋 邦彦 氏

1. 講演要旨

1) 食物アレルギーとは

食物によって引き起こされる抗原特異的な免疫学的機序を介して生体にとって不利益な症状が惹起される現象をいう。

- ① 症状…食物の摂取、接触、吸入後2時間以内に出現する即時型症状
 - ・皮膚：かゆみ、むくみ、じんましん、皮膚が赤くなるなど
 - ・粘膜：目の充血やかゆみ、まぶたの腫れ、くしゃみ、鼻汁、鼻づまり、口の中やのどの違和感・腫れ・かゆみ・イガイガ感
 - ・消化器：腹痛、吐き気、嘔吐、下痢
 - ・呼吸器：呼吸困難、せき込み、声のかすれ、呼吸音がゼーゼーする
 - ・アナフィラキシー：皮膚、粘膜、消化器、呼吸器の様々な症状が複数出現し、症状がどんどん進行してくる状態。血圧の低下や意識障害などを引き起こし、ショック状態に至ることがある（アナフィラキシー・ショック）
- ② 原因…鶏卵、牛乳、小麦の3大アレルゲンと言われるが、年齢によって異なり、学童期以降になると、甲殻類、果物類、魚類などが新たな原因になっている。

2) 食物アレルギーの正しい診断

- ① 問診、食物日誌などにより原因食物の推定
 - ・食品の種類や摂取量、摂取後症状発現までの時間、再現性、他の条件(運動など)、発症年齢、乳幼児期の栄養法などを記録しておくとうい。
- ② 検査(参考)
 - ・特異的IgE抗体(血液検査)、皮膚テスト、ビタミン遊離試験
血液検査抗体が陽性であっても、必ず症状がでるものではない。
- ③ 食品除去試験、食物経口負荷試験
 - ・実際に摂取して症状がでるかを見る。食べてはいけない食物を正確に知るには、食物経口負荷試験が必要となる。

3) 食物アレルギーの治療

- ① 食品除去（誘発予防）
 - ・正しい診断に基づいた必要最小限の原因食物の除去を行う。
- ② 薬物療法（緊急時対応）
 - ・抗ヒスタミン薬：即時型皮膚症状（じんましん、血管性浮腫）に有効だが、アナフィラキシーなど緊急性の高い症状には不十分
 - ・ステロイド薬：炎症の進展を抑制するが、即効性はない
 - ・気管支拡張薬：気管支収縮による咳、喘息に有効
 - ・アドレナリン自己注射（エピペン）：アナフィラキシーの第一選択薬
- ③ 新たな治療法…経口免疫療法

4) 学校、幼稚園、保育所における食物アレルギーの対応

- ① 生活管理指導表の作成
 - ・主治医の記載のもと保護者を通じて提出される。個々の正確な情報を把握し、主治医、園医との連携を図り、緊急時の対応への準備をする。
- ② アレルギー対応食の提供…基本は完全除去食（代替食）
- ③ 原材料表示や献立表の丁寧な確認
- ④ 誤食、誤配の防止…調理の工夫、料理名・使用食品の明確化
- ⑤ コンタミネーションを防ぐ調理
- ⑥ 紛らわしい原材料表示や食品に注意
- ⑦ 給食以外での食物アレルギーに対する配慮…食物、食材を扱う活動
- ⑧ 緊急時の対応…職員全体の情報共有、園内での役割分担、エピペン使用に対する正しい理解と行動

5) エピペン練習

2. 感想

アレルギーやアナフィラキシーに対する正しい知識をもち、医師や保護者と連携をとりながら個々のアレルギー対応に努めることの大切さとともに、エピペンに対する正しい理解と行動が子どもの生命を守るのだということを学ぶことができた。

子ども達が安心な環境のもと、安全に生活することができるように、私達職員は努めていかなければならないと思った。

（記録 京丹後市立弥栄保育所 藪下 和栄）